

GEPARK CHICHIBU



ジオパーク秩父



日本ジオパーク委員会
再認定審査の指摘事項に対する
アクションプラン



2020 年 6 月

秩父まるごとジオパーク推進協議会

目 次

1 策定の経緯と目的

2 実施体制

3 対象期間

4 関連計画との整合性

5 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する方針

6 指摘事項及び実施内容

（１）緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね１年以内）

- ① 地域内におけるジオパークの理念の共有
- ② スタッフの拡充を含む事務局体制の改善

（２）できるだけ早く着手ないし解決すべき課題（おおむね２年以内）

- ③ ジオパークとしての計画・指針の策定
- ④ ジオサイトの選定と保全・活用方針の明確化
- ⑤ 日本ジオパークネットワークへの積極的な参画

（３）解決すべき課題

- ⑥ 拠点施設の整理と効果的な運用
- ⑦ ガイドの創意工夫と看板の拡充

7 全体スケジュールの概要

1 策定の経緯と目的

ジオパーク秩父は、2011年9月5日に「ジオパーク秩父」として当時国内で15番目の日本ジオパークに認定を受けました。その4年後となる2015年における再認定審査においても、地域全体でジオパーク活動を推進することにより、多様な団体が「秩父まるとジオパーク推進協議会」に参加し、外部の連携団体や住民団体も積極的に活動に関与するようになったことから、ジオパーク活動が広がりを見せた成果が認められ、再認定を受けました。その後、2016年3月に策定された「日本ジオパーク委員会からの指摘事項に関するアクションプラン」をもとに、事務局・運営体制の見直しに始まり、テーマ及びストーリーの再構築、PR媒体の刷新などを中心とした取り組みを進めながら、活動を実施してきました。

このたび、2回目となる日本ジオパーク委員会による再認定審査が、2019年10月25日から27日までの間、現地において行われ、同年12月25日に開催された第38回日本ジオパーク委員会において、「条件付き再認定」との決定がなされました。この決定に伴い、2020年2月10日付けで同委員会から通知された「審査結果報告書」において具体的に示された指摘事項は、現在のジオパーク秩父が持つ課題、そしてより充実したジオパークへと発展していくための今後の道程を示すものです。

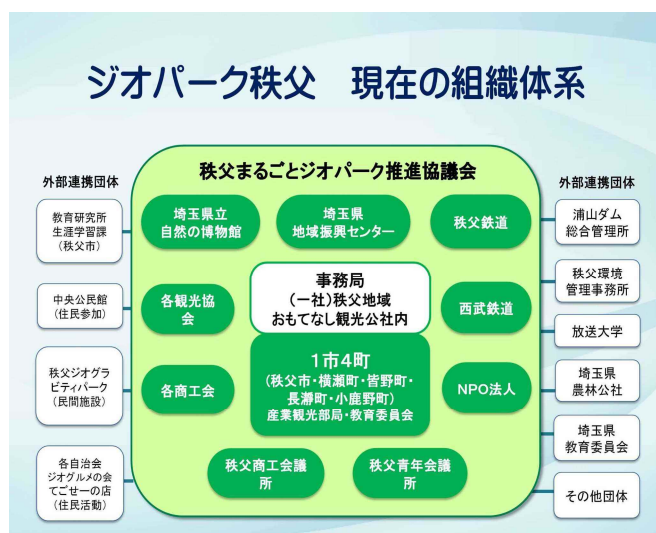
今後の活動指針について明確化するために、各指摘事項に対する実施内容、スケジュール、実施体制等を踏まえた、「日本ジオパーク委員会再認定審査の指摘事項に対するアクションプラン」（以下、「当計画」という。）をここに策定します。

2 実施体制

ジオパーク秩父は、1市4町（秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町）をエリアとしており、その中心となる運営組織として、「秩父まるとジオパーク推進協議会」（以下、「協議会」という。）があります。なお、協議会事務局は、ジオパーク秩父と同一のエリアを事業範囲とする一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社内に置かれています。

協議会は、埼玉県、各鉄道会社、観光協会、商工会、NPO法人等で組織され

ており、協議会の具体的な活動方針の検討と実際の運営を行う「運営委員会」と、企画立案及び運営の中心的役割を担う「企画運営部会」が置かれています。事業実施にあたっては、地域のジ



オパーク活動を担う各連携団体が存在しており、協議会が決定する方針・方向性に基づいて各団体が独自の事業を展開しています。

当計画の履行についても、協議会が中心となって上記の組織体系の中でまず目的の共有を図り、各指摘項目の課題解決に向けて最も大きな成果を生むことができる実施主体をそれぞれ選定し、さらに関係する各団体間の連携体制を構築していきます。

3 対象期間

当計画の対象期間は、2020年4月1日から2022年3月31日までとします。これは、2020年2月10日付け審査結果報告書において解決すべき課題として期限が提示されている「おおむね2年以内」の記述を踏まえて設定するものですが、その後も継続して実施すべき事項、中・長期的な視点で拡充を図っていくべき事項については実施期間を超えて当計画上に記載しています。

4 関連計画との整合性

当計画は、下記の各計画の他、関連する計画との整合性を保って実行します。

- ・ 名勝及び天然記念物「長瀬」保存活用計画（1998年2月策定）
- ・ 天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」保存活用計画（2020年3月策定）
- ・ ちちぶ定住自立圏構想第3次共生ビジョン（2020年3月策定）
- ・ 第2次秩父市総合振興計画（2016年3月策定）
- ・ 第6次横瀬町総合振興計画（2020年3月策定）
- ・ 第2次小鹿野町総合振興計画（2019年3月策定）
- ・ 第5次皆野町総合振興計画（2017年4月策定）
- ・ 第5次長瀬町総合振興計画（2017年3月策定）

5 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する方針

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行はジオパークの各活動にも大きな影響を与えています。ジオパーク秩父では、今後も、国や地方自治体の方針を遵守し、関係機関及びジオパークネットワークにおける情報共有を行いながら、感染症拡大防止を前提にその時点において最も適切な活動の形を創出していきます。それには、来訪者及び関係者の健康・身体の安全が確保されていること、低迷する地域経済の支援につながる内容であること、「新たな生活様式」の実践モデルとなること等を重視した上で実施し、ジオパークが地域に貢献する取り組みであることを広く伝えていきます。

6 指摘事項及び実施内容

(1) 緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね 1 年以内）

①地域内におけるジオパークの理念の共有

指摘事項（報告書から抜粋）

NPO をはじめとする一部の関係者が、ジオパーク活動にやりがいを見出しつつあることは評価できる。しかし、ジオパークの目的や考え方を、すべての関係者が共有できているとは言い難い。今後は、事務局や運営委員会、企画運営部会のみならず、ジオパーク関係者が、まずはジオパークの理念を共有し、一体感をもった活動をすることが重要である。

◆改善方針

ジオパーク秩父における活動のうち、ジオツアーや講演、イベント、ガイド養成などを担っている各団体においては、積極的に活動を行う実際の担い手が日々活躍しています。団体ごとに特色がある活動はジオパーク秩父の魅力を多面的にPRするよい機会となり、裾野を広げた幅広い層への普及・啓発活動が地域内外で実を結んでいます。

多様性を見せている各活動ですが、関係者の中では、ガイドや解説の際、説明するサイトに関する情報の取得はするものの、表面的、単一的な理解で止まってしまっている事例が少なからずあります。そこで、「ジオパークは何のためにあるのか」、「なぜジオパーク活動をするのか」という根本的な問いをあらためて関係者全体に投げかけ、考え、共有する機会をつくる必要があります。そして、関係者全体が、ジオパークの理念を正しく理解し、既存の活動への意味づけを行って、何よりその理念を秩父地域で実践していくことの価値を関係者全体が再認識することが肝要であると考えます。

◆改善に向けた実施内容

実 施 内 容	実施主体	予算措置
●ジオパーク公式テキストの発行 現在新たに作成中の公式テキストには、ジオパークの基礎知識として、その理念や秩父が目指す方向性を明確に記載します。また、テキストはまず関係者へ広く配布し、勉強会や現地での見学会、ガイド養成などの機会に活用していきます。	運営委員会 企画運営部会	令和元年度 補正予算 （繰越）
●有識者講演会の開催・交流促進 ジオパーク関係者を招聘して講演会、意見交換会等を開催し、ジオパークの理念や先進事例を地域で共有する開かれた機会をつくります。また、先進地域への視察を実施して他のジオパークとの交	事務局 推進協議会 運営委員会	令和 2 年度 当初予算

流を促進し、関係者の知見を増やします。		
●関係者間の情報共有の強化 前述の公式テキストや講演会の開催のみならず、ジオパーク秩父関係者が日常的にジオパークに関連する最新の情報を得ることができる仕組みを構築します。関係者全体が共通の認識に基づいて一体的な活動を行い、必要に応じて事務局がバックアップできる体制を確立します。	事務局 推進協議会	令和 2 年度 当初予算

②スタッフの拡充を含む事務局体制の改善

指摘事項（報告書から抜粋）

事務局を秩父市観光課から 1 市 4 町で運営する「一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社」内に移管したことで、専任担当者が広域的な事業を展開することができるようになった。また、企画運営部会を設置したことで事業の実施について検討を行うことがやっとなできるようになった。このように運営体制について模索してきたことは評価できる。しかしながら、行政職員の人事異動等により活動の理念や課題が十分引き継がれず、このことが数年先を見据えた事業を推進することの支障になっている。また常勤の専属職員が 2 名（事務員と上席推進員）しかおらず、十分な管理運営ができていたとは言い難い。

よって、ジオパークを運営するための組織作りを進める必要がある。特に、ジオパークの理念に基づいて地域をけん引していくことができるような人物の雇用とスタッフの拡充が必要不可欠である。事務局の中に、中・長期的にジオパーク秩父の運営に携わり、ジオパーク秩父の顔として、内外に存在感を示せる中心人物を置くことが重要である。また、構成団体及び各関係者において資質と意欲のある者については、日本ジオパークネットワークの各活動へ積極的に参加できるよう事務局が実質的な支援をすることが必要である。

◆改善方針

ジオパーク秩父と事業領域を同じくする一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社内に協議会の事務局が置かれたことで、公社事業、公社スタッフとの日常的な連携ができるようになったことは、ジオパーク秩父のエリア内の広域連携に非常に大きな効果がありました。また、企画運営部会を組織したことで、ジオパーク秩父の運営に直接係るメンバーは以前の体制よりも増えていることは事実です。

ただし、指摘事項のとおり事務局内でのジオパーク専任者はあくまでも 2 名であり、今後、ジオパーク秩父がその活動を拡充していくためには、必要な人材の確保、育成をしていく必要があるとも認識しています。そのため、ジオパーク秩父が持続的・発展的に運営を行っていくことができる体制について、地域内外の有識者や他のジオパークとの情報交換などを通じて研究、精査を行い、各市町の理解を得ると同時に予算の確保に至る具体的な道筋を作っていきます。

◆改善に向けた実施内容

実 施 内 容	実施主体	予算措置
●事務局への地域おこし協力隊の配置 ジオパークにおける活動実績がある、またはジオパークに関する専門知識を持つ即戦力の人材を地域おこし協力隊としてエリア内各市町いずれかで採用し、事務局へ配置します。3年間の継続雇用後も、地域内での定住が可能なよう関係者全体でバックアップしていきます。	各市町 事務局	令和2年度 補正予算
●企画運営部会コアメンバーの選定 企画運営部会の中から日常的に事務局と同様の業務を担う人材を数名選定し、ジオパーク秩父代表として地域内外における積極的な活動ができるよう体制を整えます。なお、コアメンバーについては、日本ジオパークのネットワーク活動における経費を事務局が負担するなど、実質的な支援を行います。	事務局 企画運営部会	令和2年度 当初予算
●他団体の事業との融合と人材育成 協議会以外の団体、大学など教育機関、地域内企業等が実施する事業のうち、ジオパーク秩父への関連づけをすることでさらなる成長が見込まれる事業と、協議会事業との融合を図ります。その事業の中で、地域内で積極的な活動を行う人材の発掘を行うとともに、個人及び団体で新たにジオパーク活動に参画できる機会を創出し、ジオパーク秩父の担い手の育成を図ります。	事務局 (一社)秩父地域 おもてなし観光公社 地域内の関連団体、教育機関、企業等	令和2年度 当初予算

（２）できるだけ早く着手ないし解決すべき課題（おおむね２年以内）

③ジオパークとしての計画・指針の策定

指摘事項（報告書から抜粋）

ちちぶ定住自立圏の中でジオパーク秩父を推進することは、特に財政措置の点においては良い条件にあることは理解できる。しかし、共生ビジョンの中で定められている５年間の方針は、あくまでも定住自立圏の目的を遂行するためのものである。ジオパークとして、今後の目的、各種方針、各活動を展開する上で基本となる独自の計画を策定する必要がある。

策定予定の「ジオパーク秩父保存活用整備計画」については、具体的なタイムスケジュールを基に確実に実行をされたい。その計画の中には、地形・地質学的な解釈のもとに地域内外への普及啓発を図ることを記述するほか、化石・岩石を扱う事業者や団体、そして来訪者に対しても、保全と活用についての認識をより広く共有されたい。これらの計画については、積極的に情報発信・共有を行い、持続可能な地域づくりの一端を担うものとして、この計画に基づく各取り組みを効果的に機能させることが望まれる。

◆改善方針

これまでジオパーク秩父では、ジオパークエリアと同じ１市４町の広域行政の枠組みである「ちちぶ定住自立圏構想」の中における基本方針「共生ビジョン」の中において、中・長期的計画を明示してきました。

ジオパークの理念における中心軸の要素の一つである「地域社会の持続性」、そしてSDGs（持続可能な開発目標）における各分野で示されている目標は、本質的に地域行政がその多くを担っているものであり、圏域の自立のための経済基盤の整備を進め、圏域全体として魅力あふれる地域づくりを実現していく定住自立圏の目指す姿に重なるものが多くあります。そのため、定住自立圏の事業としてジオパーク事業を行うことについては、一定の論理を持った形であると考えます。

ジオパークとしての目的や方向性が明確に示された独自の計画の存在は、そのジオパークの姿を可視化し、目指す姿をより明確にするために大きな意味をなすものと理解しています。ジオパーク秩父では、共生ビジョンとの整合性を図った上で新たに個別の基本計画を策定し、より多くの関係者の正しい理解と協力を仰いでいきます。

さらに、策定予定の「（仮称）ジオパーク秩父保全活用計画」については、ジオサイトに直接関係する先行計画である『名勝及び天然記念物「長瀬」保存活用計画』（1998年２月策定）及び『天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」保存活用計画』（2020年３月策定）との整合性を図りながら、新たな計画を実際に作成していく段階にきています。学術的根拠を担保しながら、ジオサイト等の保全と活用両面の具体的方法を明示した計画を策定し、多くの地域関係者への共有を図っていきます。

◆改善に向けた実施内容

実 施 内 容	実施主体	予算措置
●「第1次ジオパーク秩父基本計画」の策定 事務局及び企画運営部会を中心として、下記のスケジュールを基に「第1次ジオパーク秩父基本計画」を策定します。 2020年度中：計画(案)原案の作成、企画運営部会で検討 2021年3月：運営委員会への答申、承認 2021年6月：推進協議会への答申、承認 2021年7月：計画策定、公表	事務局 企画運営部会	令和2年度 当初予算 令和3年度 当初予算
●「(仮称)ジオパーク秩父保全活用計画」の策定 学識経験者及び県、各市町担当職員等を中心とし、新たに運営委員会の下部組織として「保全活用計画策定部会」を組織します。部会では、下記のスケジュールを基に「(仮称)ジオパーク秩父保全活用計画」を策定します。 2020年4月：「保全活用計画策定部会」を設置 2020年度～2021年度上半期：計画(案)原案の作成・検討 2021年9月：運営委員会への答申、承認 2021年10月：推進協議会への答申、承認 2021年11月：計画策定、公表	事務局 保全活用計画策 定部会(新設)	令和2年度 当初予算 令和3年度 当初予算

④ジオサイトの選定と保全・活用方針の明確化

指摘事項（報告書から抜粋）

2018年のジオサイト34か所の再選定にあたり、条件として訪問者にとって安全でアクセスしやすいこと、秩父札所観音霊場の数と同数にすることを優先したことで、地形・地質学的に重要なサイトが欠落した可能性は否定できない。ジオサイトとは、地球科学的価値を持った場所であり、保全の対象となるべき場所である。よって、観光利用できないようなアクセスの悪い場所にあるジオサイトや保全の観点から利用しないジオサイトは当然存在する。

ジオパーク秩父の現状では、観光利用できないジオサイトは保全保護の対象となっていないため、重要なサイトが欠落している可能性があり、早急にジオサイトの定義分類を含めた抜本的な見直しが必要である。他のジオパークの実践事例を参考にしながら、ジオサイト、サブサイトという設定そのものを再考することから始めてほしい。また、ジオサイトの観光利用についても、オーバーユースや環境へのインパクトを最大限考慮し、「持続可能な開発」を意識した、これまでにない観光の在り方に取り組んでほしい。

それと同時に、ジオパークとして、ジオサイトの保全や活用についての方針を明確にした

計画を策定、実行していく必要がある。さらに、関係者全員がジオサイトの地質学、地形学的なバックボーンを十分に理解しているとも言い難い。今後は、各サイトの学術的根拠となる論文やデータベースを整理・共有した上で、関係者がサイトの価値を深く理解するための機会を持つことが必要である。

◆改善方針

2017年から2018年にかけて、企画運営部会を中心として検討を行い、2018年7月3日に協議会の承認を受けた現在のジオサイトは、ジオパーク秩父内に数多くあるジオサイトの調査・現状把握をもとに整理が行われ、見学者が安全にアクセスできるように、まずは優先的に整備すべきジオサイトを明確化することに本旨が置かれました。

さらに、サイトの性質、つまり地形・地質学的に重要な場所であるのか、歴史文化的な要素が強いのか、眺望により地質学的な理解を促すことを目的としたサイトなのか、などの分類を行い、地形・地質学的な重要度が主である箇所のみをジオサイトとし、他のサイトは文化歴史サイト、眺望サイト、生態サイトに位置付けました。

秩父札所観音霊場の数と同数のジオサイトが選定されたことで、「観光に活用できるサイトのみがジオサイトである」という誤解を招いてしまうことは、協議会としても本意ではありません。ジオパーク秩父として現在把握している地球科学的に価値のあるサイトは、一般への公開如何を問わず、全てが保護保全の対象であり、その方針を明文化した上で具体的な計画を策定・公開することの必要性を強く認識しています。

活用と保全は表裏一体にあるものであり、そのバランスが失われることは、持続可能な開発の形を損なう大きな要因となります。ジオパーク秩父では、地域の宝である地球遺産を未来に向けて正しく継承するため、その根幹となる仕組みを確実に形成していきます。

◆改善に向けた実施内容

実 施 内 容	実施主体	予算措置
●ジオサイトの選定方針等の明文化 ジオパークにおけるジオサイトについての基本的な考え方を関係者が理解・共有した上で、ジオパーク秩父におけるジオサイトの選定方針を整理し、各サイトの明確な位置付けと保全活用の方針を「(仮称)ジオパーク秩父保存活用整備計画」上に明示します。	事務局 保存活用計画策定部会(新設)	令和2年度 当初予算 令和3年度 当初予算
●ジオパーク秩父関係論文データベースの整理 ジオパーク秩父の各サイトの学術的価値の根拠を明確にするため、代表的な論文等のデータベースを整理し、リストを公開します。	事務局 埼玉県立自然の博物館	令和2年度 当初予算 令和3年度 当初予算

●「持続可能な開発」を基にした観光プログラムの作成 ジオパーク秩父で現在活発に行われているジオツアーやイベントにおいて、持続可能な開発をポリシーに掲げた企画を取り入れ、多くの参加者へその理念を伝える場を創出します。なお、化石レプリカ作り体験などの既存の企画の拡充はもとより、甲武信ユネスコエコパーク関係者と連携して企画を立案し、実施につなげていきます。	運営委員会 企画運営部会 各構成団体 甲武信ユネスコ エコパーク	令和２年度 当初予算 令和３年度 当初予算
--	---	--

⑤日本ジオパークネットワークへの積極的な参画

指摘事項（報告書から抜粋）

ジオパーク秩父は、日本ジオパークネットワーク内でのコミュニケーションが不足している。日本ジオパークネットワークに「加盟」しているという立場を理解し、一地域だけで完結することなく、ネットワークの一員として、日本ジオパークのブランドの維持や課題解決に対して貢献してほしい。具体的には、事務局及び中心となるメンバーが、日常的にネットワークでの情報共有、相談、提案を行い、大会や研修会における事例発表、ワーキンググループ活動などに積極的に参画されたい。さらには、ガイドを含む関係者で他のジオパークへの視察や交流をこれまで以上に行うことにより、関係者の見識の向上、地元活動への還元をしてほしい。秩父地域で行っている活動で参考になる事例や課題等について共有することにより、他地域との現場レベルでの連携を強化してもらいたい。ジオパーク審査員経験者や先進的な事業を行う他のジオパークの主要な担当者をジオパーク秩父へ招聘し、講演会や交流を行うことも効果的である。

◆改善方針

これまでジオパーク秩父は、多くの方にジオパーク秩父の魅力を知ってもらい、担い手になってもらい、活動の裾野を広げていくことに重点を置いた取り組みが盛んに行われてきました。その一環として、他のジオパークの視察受け入れやこちらからの訪問など、ジオパーク間でのコミュニケーションについても着実に実績を重ねてきており、今後さらに積極的交流を図っていきたいと考えています。

また、日本ジオパークを支えているのは幅広いネットワーク活動であることに立ち返り、これからはジオパーク秩父がネットワークの一員としてさらに存在感を見せていくことが、ジオパーク全体への貢献、ひいてはジオパーク秩父の成長につながるということを深く認識し、ジオパーク秩父のかじ取りを担うメンバーが具体的な行動をとっていきやすい体制を確保します。

◆改善に向けた実施内容

実 施 内 容	実施主体	予算措置
●各大会等への積極的な参画 日本ジオパークネットワークにおける様々な行事における事例発表の場(ポスターセッション、口頭発表など)に積極的に参画し、ジオパーク秩父の活動内容を広く紹介します。さらに、各ジオパークが抱える様々な課題について共有し、ジオパーク全体のクオリティ向上に寄与します。	事務局 推進協議会	令和2年度以降、継続的に予算を確保
●有識者講演会の開催・交流促進 ※①と共通 ジオパーク関係者を招聘して講演会、意見交換会等を開催し、ジオパークの理念や先進事例を地域で共有する開かれた機会をつくれます。また、先進地域への視察を実施して他のジオパークとの交流を促進し、関係者の知見を増やします。	事務局 推進協議会 運営委員会	令和2年度以降、継続的に予算を確保

(3) 解決すべき課題

⑥拠点施設の整理と効果的な運用

指摘事項（報告書から抜粋）

拠点施設が13か所あり、来訪者が最初に訪れるべきガイダンス施設がどこなのかがわかりにくい。主要拠点施設は13か所中4か所としているが、主要拠点施設とその他の拠点施設の違いや役割を明確にする必要がある。また、拠点施設の展示・解説内容が、概説的で同一のものになっている所が多いので、その場所で伝えたいことを明確にして、拠点施設ごとの展示に特色を持たせることを期待したい。中長期的には、本拠地となる展示・解説・情報集約および発信を行うジオパークとしての中核施設を整備すべきである。

◆改善方針

かねてからの課題であった拠点施設の充実については、2017年から2018年にかけて、ジオサイト再選定に合わせて整理を行ったことで、現在ではジオパーク秩父内のエリアごとに地域的なバランスを見て配置されています。その中で実質的なガイダンス施設となっているのが、ジオパーク秩父に特化した大規模な常設展示を行っている埼玉県立自然の博物館です。ジオツアーなどにおいても、同博物館は欠かさずに立ち寄る場所になっています。

ただ、個人でジオパーク秩父を訪れる方にとって、主要拠点施設、拠点施設それぞれで得られる情報には差があるといったことは伝わりづらい現状があります。これについては、ホームページなど各PR媒体で具体的に紹介することで、訪問者の利便性向上を目指します。

さらに、各施設ともにジオパーク秩父についての最低限の基本情報を持たせつつも、それぞれの施設、エリアの特色を生かした展示内容に拡充していきます。

また、新たな中核施設については、先進事例を参考に、施設候補地や規模、費用対効果など現実的な懸案事項を検証しながら、近い将来における展開に向けて協議を進めていきます。

◆改善に向けた実施内容

実 施 内 容	実施主体	予算措置
●主要拠点施設、拠点施設の役割の明確化 まずは多くの来訪者が参照するホームページで、拠点施設の役割と内容を明確化し、来訪者のニーズに合わせて訪れるべき拠点施設を紹介し、誘導します。その後、新たに作成するPR媒体においても明確に掲載します。	事務局 企画運営部会	令和2年度 当初予算
●拠点施設の展示内容の充実 2019年度に全ての拠点施設で基本情報を掲載した共通パネルの整備が完了したことを受け、今後は、既存の展示内容を各エリア、近くのジオサイト、または各テーマ・ストーリーに特化したものに更新・拡充していきます。	事務局 企画運営部会 各施設管理部門	令和2年度以降、継続的に 予算を確保

⑦ガイドの創意工夫と看板の拡充

指摘事項（報告書から抜粋）
ガイドの中には、高い技術と知識を持った人材がいるが、ガイド活動を担う各団体が、それぞれの解釈のもとにジオサイトの説明をしている現状が見られる。<u>ジオパーク秩父の遺産の価値を整理した上で共有し、それぞれのサイトで最も伝えたいことや魅力を明確に伝えられる創意工夫がなされることが望ましい。</u>その際、日本列島の中でのジオパーク秩父の位置づけを整理し、ジオストーリーの充実を図られたい。 ガイド技術については参加者に満足感を与えられるような手法を採用しながら、ガイドクオリティの向上を図っていただきたい。ガイド内容を関係者で共有し、ガイドや研究者間でコミュニケーションを取り、相互に学び合うことを重視して進めてほしい。それと同時に、<u>解説看板はわかりやすい図やイラストを挿入するなど、本質が伝わる内容に改善されたい。</u>現地への案内看板が少ないところがあるので設置を検討されたい。

◆改善方針

ジオパーク秩父では、NPO法人の活動が活発であり、年間を通じて積極的にガイド事業を実施しています。NPO法人では独自にガイド養成事業も行っており、協議会や埼玉県立自然の博物館をはじめ、各市町が独自に開催している講座・研修などを通じて、ガイド経験者のもとより、これからガイドの担い手となる人材の発掘・育成について幅広い機会を創出しています。

現在のジオパーク秩父に求められるのは、「地球の歴史、日本列島形成の歴史の中で、ジオパーク秩父にはどのような価値があるのか」という問いをあらためて関係者に投げかけるとともに、各サイト自体の学術的価値について関係者全体が正しく理解することです。その上で、「地球遺産の称賛」を中心軸に据えた認識を深め、人々に伝わりやすい、興味関心をひく方法で個々の色付けを行うことであると考えます。今後、各関係団体のさらなる連携が進むよう、団体間、さらにはジオパーク秩父で活躍している個人同士のコミュニケーションを密にし、解説方法のアイデアを広く共有できる場を作り出すことに基軸を置きたいと考えています。

現地解説看板については、毎年継続して新規設置、更新を図っています。今後は、内容をさらにわかりやすく工夫し、Webコンテンツとの連携を行いながら、ジオツアー参加者だけでなく個人での訪問者についても迷うことなく現地へアクセスができ、楽しく学ぶことができるよう、創意工夫をしていきます。

◆改善に向けた実施内容

実 施 内 容	実施主体	予算措置
●ガイド部会の新設 事務局及びジオパーク秩父の実質的な活動を担うNPO団体や関係団体の会員を中心に、運営委員会の下部組織として新たにガイド部会を設置します。部会では、ジオパークの理念やジオパーク秩父の本質的価値、そしてガイドのノウハウを研究、共有し、正しい理解の醸成と質の向上を目指す取り組みを推進していきます。	事務局 ガイド部会(新設)	令和2年度以降、継続的に予算を確保
●現地解説看板の刷新 毎年継続的に予算を確保し、刷新が必要である現地解説看板の調査を行い、段階的にリニューアルを図っていきます。その際、サイトの本質的価値が伝わり、訪問者が興味を持って見学できるような創意工夫を心掛けます。併せて、アクセスが分かりづらいサイトについては適宜案内看板を新設していきます。	事務局 各市町担当部署	令和2年度以降、継続的に予算を確保

7 全体スケジュールの概要

各実施内容については、下表のスケジュールに基づいて実施します。

改善に向けた実施内容	令和２年度		令和３年度		令和４年度以降	
①地域内におけるジオパークの理念の共有						
ジオパーク公式テキストの発行	作成	頒布				
有識者講演会の開催・交流促進						
関係者間の情報共有の強化	ネットワークの構築、情報共有					
②スタッフの拡充を含む事務局体制の改善						
事務局への地域おこし協力隊の配置		準備	配置			
企画運営部会コアメンバーの選定						
他団体の事業との融合と人材育成		事業調査、連携				
③ジオパークとしての計画・指針の策定						
「第１次ジオパーク秩父基本計画」の策定	計画案作成期間		策定・公開			
「(仮称)ジオパーク秩父保全活用計画」の策定	計画案作成期間		策定・公開			
④ジオサイトの選定と保全・活用方針の明確化						
ジオサイトの選定方針等の明文化	方針の整理			計画へ掲載		
ジオパーク秩父関係論文データベースの整理	データベース整理		公開・更新			
「持続可能な開発」を基にした観光プログラムの作成			作成・継続運用			
⑤日本ジオパークネットワークへの積極的な参画						
各大会等への積極的な参画						
有識者講演会の開催・交流促進						
⑥拠点施設の整理と効果的な運用						
主要拠点施設、拠点施設の役割の明確化		整理・調整				
拠点施設の展示内容の充実		随時実施				
⑦ガイドの創意工夫と看板の拡充						
ガイド部会の新設		部会新設、活動を随時実施				
現地解説看板の刷新		随時実施				